

外来診療担当医表

■ 診療時間 午前 8:30~12:30 午後 13:30~17:30

診療科目	月	火	水	木	金	土	日
内科	一般内科	佐藤	内之倉	吉田	田中	内之倉	当番医師
	一般内科 腎臓内科	永野	永野	永野	永野	永野	
	循環器内科			田中			
	代謝内科						九州大学
	神経内科				原 (第1・3週)		
	血液内科	白藤 (午後のみ)					
整形外科 リハビリテーション	午前	福岡大学 (10:00過ぎ~)	久賀	久賀	木山/斧出	福岡大学 (10:00過ぎ~17:00)	福岡大学 (第2・4週)
	午後						
小児科	吉田 (午後のみ)		吉田 (午後のみ)	吉田 (午後のみ)	吉田 (午後のみ)		
耳鼻咽喉科	長崎大学 (9:30~)	長崎大学 (12:30迄)			長崎大学 (9:30~)	長崎大学 (12:30迄)	
精神科					辰巳		
泌尿器科	宮崎 (午前のみ)	宮崎 (午前のみ)	宮崎 (午前のみ)	宮崎 (午前のみ)	宮崎 (午前のみ)		
眼科							九州大学 (第1・3週)
皮膚科		武田 (10:40~)(隔週)					
人工透析	永野	永野	永野	永野	永野	永野	
消化器検査(内視鏡)		清水	清水	清水			
(内科系)午後担当医	白藤	内之倉	田中	田中	内之倉/田中/吉田 (交代で)	当番医師	当番医師

当番医師

【備考】

- ・内科系の午後診療は、当番制となっております。
- ・内科/発達小児科/精神科/泌尿器科/眼科においては「予約制」を導入しております。
- ・休診日は、祝日午後・土曜日午後及び日曜日。時間外・休日等は、当番医師にて急患対応致します。



交通アクセス

- 天草空港より車で25分
- 本渡バスセンターよりバスで40分
- 天草慈恵病院前 停留所下車 徒歩2分



救急告示病院
社会医療法人 稲穂会

天草慈恵病院



ホームページ URL <http://www.inahokai.com/>

■熊本県天草郡苓北町上津深江278-10	
社会医療法人稲穂会 天草慈恵病院	TEL 0969-37-1111(代)
医療連携室	TEL 0969-37-1150
健診センター	TEL 0969-37-1730
通所リハビリテーション 蕩蕩館	TEL 0969-37-1202
温泉プール 悠游館	TEL 0969-37-1111
ケアプランサービス JCS24	TEL 0969-37-1111
訪問看護ステーション はまゆう	TEL 0969-37-0288
ヘルパーステーション JCS24	TEL 0969-37-1111
介護老人保健施設 慈恵苑	TEL 0969-37-1567
天草慈恵病院 介護医療院	TEL 0969-37-1111
■熊本県天草郡苓北町富岡2228-16	
住宅型有料老人ホーム 和	TEL 0969-35-0171
■熊本県天草市河浦町河浦4660-1	
訪問看護ステーションはまゆうサテライト河浦	TEL 0969-76-0101

医療・介護・福祉の総合的・複合的サービス提供

AMAKUSA JIKEI HOSPITAL

2024 VOL.44 9月号

発行：社会医療法人 稲穂会 天草慈恵病院

天草慈恵だより



「慈恵ペーロン隊」

CONTENTS

- 心臓リハビリ開始
- 糖尿病教室
- ペーロン大会
- 「浮いて待て」
- 認知症サポーター講座 ほか

「心臓リハビリテーション」開始しました!

当院では、令和6年7月より「心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅱ)」の施設基準を満たし、心臓リハビリテーションを開始しました。生活習慣の乱れに伴う虚血性心疾患(心筋梗塞や狭心症など)の増加や高齢化による高血圧や弁膜症の増加などにより、全国的に心不全の増加がみられています。心不全の罹患率は高齢に伴い高くなることから、高齢化の高い天草地域でも罹患率が高いことは容易に予測でき、心臓リハビリの必要性を強く感じておりました。今回、心臓リハビリを開始するにあたり、心臓リハビリが可能な施設が天草医療圏には2医療機関しかなかったため、今後天草地域における心臓リハビリの普及に一翼を担う存在となれるよう、取り組みを行っていかれると思っております。

尚、心臓リハビリについては、回復期リハビリテーション病棟の対象疾患となっております。ご紹介の際には、当院医療連携室へご相談ください。

【心臓リハビリテーション対象疾患】

急性心筋梗塞、狭心症、慢性心不全、心臓術後、大血管疾患、末梢動脈疾患、経カテーテル大動脈弁置換術後



天草慈恵病院の『回復期リハビリテーション病棟』

天草慈恵病院では、急性期治療後の患者様に対し医療専門医(医師・看護師・ケアワーカー・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・ソーシャルワーカー・薬剤師・管理栄養士等)がチームを組んで「日常生活動作向上、寝たきり防止、家庭復帰」を目標に専門的なリハビリテーションプログラムを実施しています。

最近の退院事例

U様は、くも膜下出血にてA病院に急性期入院後、当院回復期病棟へリハビリ目的にて転院。介入時はADLは全介助、さらに意識障害が著明で、在宅はもとより病棟生活にも大きな支障をきたす状態でした。

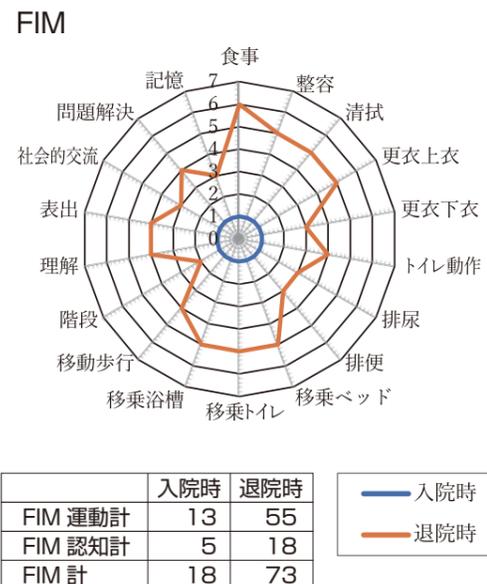
理学療法では、抗重力位での基本動作訓練や歩行訓練を中心に実施。その結果、歩行器を使用し、屋内の移動は見守りレベルとなりました。

作業療法では、座位保持訓練、トイレ・更衣動作訓練を実施。その結果、当初は座位耐久性に乏しく介助が必要でしたが、作業時に背もたれに寄りかかることなく座位保持可能となりました。また、トイレ・更衣動作は、見守りレベルとなりました。

言語療法では、直接的嚥下訓練を実施。その結果、退院時には経口より米飯・軟菜一口大、水分はストローでトロミなしでの摂取が可能となりました。構音面は、騒音下では聞き返しが必要な場面もありますが、静音下での会話は問題無く可能。

退院後は、在宅復帰され、通所介護のBを利用していらっしゃいます。

FIM	入院時	退院時
食事	1	6
整容	1	5
清拭	1	5
更衣上衣	1	5
更衣下衣	1	3
トイレ動作	1	4
排尿	1	3
排便	1	3
移乗ベッド	1	5
移乗トイレ	1	5
移乗浴槽	1	5
移動歩行	1	4
階段	1	2
理解	1	4
表出	1	4
社会的交流	1	3
問題解決	1	4
記憶	1	3



回復期リハビリテーション病棟のお問合せ先

- 天草慈恵病院
代表 TEL 0969-37-1111
- 医療連携室
直通 TEL 0969-37-1150
直通 FAX 0969-37-1160

糖尿病教室

6月21日(金)、当院「アマランスホール」にて糖尿病教室を開催し、24名の方が参加されました。今回は、体づくりをテーマに糖尿病に対する運動効果、運動の種類と強度、運動前の注意点、運動するにあたっての中止・禁止事項などについてお話させて頂きました。

参加者の皆様からは「大変分かりやすく、参加できて良かった」「1時間講義があってもよかった」との声を頂くことが出来ました。

今回は、10月21日(月)フットケアについてのお話です。

運動指導士 田尻華菜



熱戦!ペーロン大会

7月21日(日)、夏の風物詩でもある「苓北じゃっと祭」のペーロン大会に、今年も職員有志が集まり「慈恵ペーロン隊」として出場しました。灼熱の太陽のもと、みんなで力を合わせて合計2回のレースに挑みました。今年は初参加のメンバーも沢山いましたが、息の合ったオール捌きで見事、昨年のタイムを更新することが出来ました。

(写真は1面表紙)

土曜日外来のご案内

整形外科

当院の整形外科では月～金曜日までの外来診療の他、土曜日にも外来診療を行っております。

土曜外来診療日(2024年9～10月)

9月の診療は 14日・28日
10月の診療は 12日・26日

担当医
8:30～14:30
福大整形外科 医師



代謝内科・眼科

当院では、九州大学病院代謝内科医・眼科医による診療を行なっています。

外来診療のみで、眼科疾患全般を対象としています。詳しくは、受付窓口までお問い合わせください。

診療日程(2024年9～10月)

代謝内科診療：9月7日・14日・21日・27日(金)
10月5日・12日・19日・21日(月)
眼科診療：9月21日・28日
10月12日・26日

診療時間
8:30～14:30

「浮いて待て」～水難事故に備える～

7月13日(土)に悠游館にて「浮いて待て」講習会を開催しました。小学生から大人まで計12名が参加。洋服、靴を着用したままプールに入ってもらい、動きにくさ、泳ぎにくさを体感していただきました。足が沈まないように「イカ泳ぎ」という泳ぎにもチャレンジしました。参加者からは「イカ泳ぎを初めて知った」「溺れている子がいたら慌てて助けに行きそうだが、今回、救助法が知れて落ち着いて出来そう」とのご意見を頂戴しました。来年度も開催予定をしておりますので、より多くの方に体験して頂きたいと思います。

悠游館 田尻華菜



認知症サポーター養成講座

7月23日(火)と26日(金)の2日間、稲穂会職員を対象に「認知症サポーター養成講座」を実施しました。認知症の基礎知識をはじめ、認知症の方をどうサポートしていけば良いか?また、ご家族への接し方等についてグループワークを交えて学びを深めました。

今回は、認知症の方と接していくためには「驚かせない」「急がせない」「自尊心を傷つけない」といった3つのポイントが大切であることや、若年性認知症についても取り上げました。若年性認知症は、認知症高齢者と抱える問題が大きく違い、天草にも令和3年時点で若年性認知症と診断された方が44名いらっしゃいます。講座の中で、若年性認知症患者のインタビュー動画を視聴しましたが、その中で「認知症患者は何もできなくなるわけではなく、できる事はさせて欲しい。できない所を補って欲しい」という発言が大変印象的でした。

認知症は誰にでもなる可能性のある病気で、決して他人事ではありません。認知症サポーターとして、それぞれが認知症を正しく理解しながら、これからも職場や地域で患者様やご家族を支援して頂きたいと思います。



苓北町認知症キャラバンメイト sa老健 小川みずぎ